

年 組 () 名前

サイン

ど ぐう わ 土偶のペア 分かるかな



◆ 土偶は、人をかたどった土の焼き物です。縄文時代という大昔にたくさん作られました。青森県が同じ形の土偶を探し出すゲームをインターネットで公開し、話題になっています。(2022年10月6日 読売KODOMO新聞より)

せんせい ひと よ
先生やおうちの人といっしょに読みましょう。

【1】上の写真で、同じ形の土偶のペアを探しましょう。いくつ見つけれられるかな。

【発展問題】「ハート型土偶」「縄文のビーナス」「合掌土偶」「遮光器土偶」など、各地で様々な土偶が見つかっています。あなたが気に入った土偶の絵を裏にかきましょう。

しゃしん あおもりけん
写真は、青森県の
ばんじょう ど ぐう しんけいすいじゃく
「板状土偶神経衰弱」ゲーム

同じ形の土偶を探し出せ！青森県がインターネットで公開したゲームが「むずかしい」と話題になっています。

青森市の三内丸山遺跡は、国内最大級の縄文時代の集落跡です。ここで見つかった21種類の板状土偶をランプのカードに見立てて、ペアを探します。板状土偶は、体が板のように平らにつくられているのが特徴。三内丸山遺跡からは、国内最多の2000点以上が出土しています。全国の人に知ってもらおうと、青森県が企画しました。

年 組 () 名前

サイン

◆ 韓国の人気音楽グループ「BTS」の最年長メンバーのJINさんが、兵役義務を果たすため、軍に入隊する手続きに入ります。

【1】あなたはBTSに兵役免除を認めべきだと思いますか。その理由も書きましょう。

【発展問題】兵役のある国を調べて書きましょう。

【ソウル＝上杉洋司】世界的に人気を誇る韓国の7人組男性グループ「BTS」の所属事務所は17日、最年長メンバーのJINさん(29)が韓国の兵役義務を履行するため、軍に入隊する手続きに入ると発表した。他のメンバーも順次、兵役に就く予定だ。

韓国では原則、18歳以上の男子に18〜21か月の兵役義務があり、28歳までに入隊する。特例で2年延期が認められる制度があるが、JINさんは今年12月に期限が迫っていた。JINさんは10月末に入

BTS 軍入隊へ

7人で活動再開「25年を希望」

隊延期の申請を撤回し、韓国兵務庁の決定に従って軍務に就く。

他のメンバーの入隊時期について、所属事務所は「各自の計画に沿って、順次履行する」と説明。各メンバーは当面、ソロ活動に専念する。7人全員がそろっての活動再開は「2025年あたりを希望しているが、正確な時期を特定するのは困難だ」としている。韓国の兵役は、五輪メダリ

JINさん「兵役履行」発表

ストなどは免除の対象だ。2年前、BTSを念頭に「大衆文化芸術分野」の功労者には2年の入隊延期を認める法改正を実施。その後も、BTSの兵役免除を認めるかどうかについて、国論を二分する議論となっていた。

BTSは13年にデビュー。優れた歌唱力とダンスで人気を集め、「ダイナマイト」や「Butter」で米ビルボード1位を獲得した。

(2022年10月18日 読売新聞朝刊より)

©The Yomiuri Shimbun

年 組 () 名前

サイン

愛知大編さん

日・米・中友好黒子の辞典

1972年の日中国交正常化から今年で50年。敵対していた米中や日中の国交回復につながった「ピンポン外交」の実現には、愛知大（名古屋）が編さんした「中日大辞典」が大きな役割を果たしていた。関係改善の糸口を探る中国外交官に暗号で指示を伝える際にも利用。近年、その事実を知った同大関係者は「改めて友好の歴史を振り返ってほしい」としている。

（桑田睦子）

中国、暗号伝達に活用

ピンポン外交

◆日中国交正常化から今年で50年になります。国交回復につながった「ピンポン外交」実現の舞台裏で、愛知大が編さんした「中日大辞典」が大きな役割を果たしました。

（2022年10月14日 読売新聞夕刊より）

ピンポン外交は71年に名古屋で開催された世界卓球選手権を機に始まった。誤って中国のバスに乗り込んだ米国人選手に中国人選手が贈り物を渡し、その後、中国の招待で米国チームが訪中するなど交流した。中国選手団に同行して来

日した外交官の江培植氏が、当時の内幕を明かす回顧録を2013年に中国で出版。同大国際中国学研究所（国際産業論）が米国の回顧録を見つけ、昨年4月にシンポジウムで報告した。

李教授によると、江氏は選手権閉幕前夜の本国との電話で、毛沢東主席の指示を暗号で伝えられた。盗聴を警戒したとみられ、その際に使われたのが、初の本格的な中国語辞典として同大が1968年に刊行した「中日大辞典」だった。暗号は大辞典のページと列、行を示す数字にあらかじめ決めた数を交ぜたもので、該当する漢字をつなげて解読したと考えられるという。

指示は「中米両国の選手と人民の友情を増進するため米中国チームを中国に招待する」という内容で、江氏は「急いで代表団の責任者に伝えた」という。暗号については「おそらく最も原始的で、最も解読しにくい」と評していた。

「発想に驚き」

選手の交流は72年2月の米大統領訪中、同年9月の日中共同声明につながり、「小さなピンポン球が大きな地球を動かした」といわれた。編さんに携わった今泉潤太郎・同大名誉教授は「大辞典を暗号に使う発想に驚いた。ピンポン外交や国交回復に役立てたのは感慨深い」と話した。李教授は「民間交流が国交正常化の原動力になった。大辞典は友好の使者として役割を果たした」としている。

【1】ピンポン外交について調べ、わかったことを裏に書きましよう。

【発展問題】これまでどのような暗号が使われてきたか、調べましよう。また、辞典や辞書などを使って自分なりの暗号を作りましよう。

年 組 () 名前

サイン

細る人手 自動運転に活路

採算改善 技術革新力ギ



自動運転で走る山手線の営業列車。窓の「ATO」の文字が自動運転車両を示す（13日、東京都渋谷区で）

10月11日、JR東は初めて、山手線で乗客を乗せたままの自動運転実験に踏み切った。運転士は乗車するが、出発ボタンを押すだけだ。発車と同時に徐々に加速し、正確な位置に止まった。速度管理を担ったのは、独自に開発した自動列車運転装置（ATO）だ。

運転士は通常、レバーで加減速を操作し、ダイヤを守り、駅の正確な位置に止めるために細心の注意を払う。自動運転では走行時の負担が大幅に減る分、ドア開閉など車掌業務を担えるようになる。都市部でもワンマン運転に道筋がつく。

完全無人運転は、東京の臨海部を結ぶ「ゆりかもめ」などの新交通システムですでに実現している。鉄道で完全無人運転が難しいのは、踏切のある地上を走り、人や車が線路内に入ってしまう可能性があるためだ。

1日平均76万人が利用し、3分に1本という過密ダイヤで動く山手線への導入は困難をきわめるが、JR東は11月末までに山手線で計1000周分の実験走行を計画している。28年頃

◆日本の鉄道は10月14日、開業150年を迎えました。持続可能な運営へ技術革新が進んでいます。（2022年10月16日 読売新聞朝刊より）

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

技術革新は車両だけでなく、車両だけにとどまらない。

JR東は来年3月、「オプティック定期券」を導入する。平日朝の混雑時間帯を避けて乗車すると定期券が1割安くなる仕組みだ。東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城の1都4県を走る16路線（278駅）で始める。

JR東のICカード「Suica（スイカ）」の定期券を使い、関連するシステムのソフトウェアの変更が可能にした。

需要を分散させて混雑を緩和できればサービスの向上につながる。経営側の目から見ると、混雑時の運行本数を減らすことができる。

に有人での自動運転を本格導入する。

国家資格の必要な運転士や、車掌が乗らなくても列車を運行させることができれば、将来の人手不足に対応できる。人件費が浮くため、赤字路線の採算改善にもつなげることができるとも見られる。

【1】鉄道事業の技術革新を進めることには、どのような利点がありますか。JRなどの鉄道会社と、わたしたちの生活にもたらす効果をそれぞれ書きましょう。

【鉄道会社】	【生活】
--------	------

【2】鉄道のように、生活に欠かせない設備や仕組みのことを「インフラ」といいます。インフラには、ほかにどのようなものがありますか。

【発展問題】あなたの身の回りで、人が行う代わりに機械化や自動化されたものには何がありますか。また「人にしかできない」ということは何ですか。それぞれ裏に書きましょう。

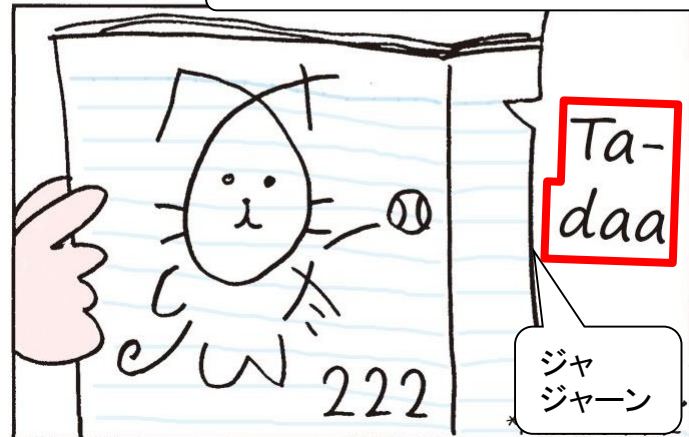
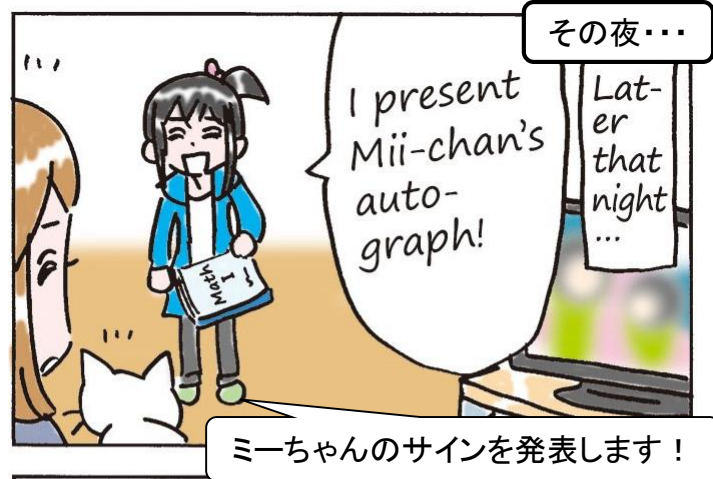


年 組 () 名前

サイン



そして、ついにミーちゃんのサイン...



◆ミー太郎のサインは手形ですが、飼い主のユキちゃんは不満です。ユキちゃんは新しいサインを考え、みんなに披露しました。

Ta-daa
ジャジャー(擬音)
何かを披露したり、いきなり見せたりするときの擬音です。「Ta-dah」とも書きます。

- ★あわせて覚えよう★(擬音)
- cock-a-doodle-doo
コケコッコ(ニワトリの鳴き声)
 - ribbit ケロケロ(カエル)
 - choo-choo シュシュポポ(汽車)
 - atchoo ハクシヨン(くしゃみ)

単語帳 at last: ついに、とうとう

★なぞってみよう★
Ta-daa
atchoo



参加無料 (定員150人)

要事前申し込み

申し込みは
こちらから



日時

2022 **11/12** **土**

13:00 ~ 16:20 (開場 12:30)

会場

日本プレスセンタービル10階ホール
(東京都千代田区内幸町 2-2-1)

主催

読売新聞大阪本社

情報パンデミックは、私たちに何をもたらすのか 実態と対処法を語る！

コロナ禍でデマや陰謀論が不気味な広がりを見せ、社会に混乱と不信、そして分断を生みました。読売新聞は2021年1月から、長期キャンペーン報道「虚実のはさま」を展開し、その実態に迫ってきました。シンポジウムでは、情報を流布する側と、翻弄される側双方に取材を重ねてきた記者が報告し、専門家と議論します。

13:00 取材報告

なぜ信じるのか、なぜ流布するのか

桑原卓志、田中俊之 読売新聞記者

14:00 パネル討論 第1部

新時代のリテラシーとは

パネリスト

坂本旬 法政大学教授
内田麻理香 東京大学特任准教授
山本龍彦 慶應義塾大学教授

15:10 パネル討論 第2部

情報汚染を食い止めるには

パネリスト

山本龍彦 慶應義塾大学教授
西田亮介 東京工業大学准教授
田邊光男 総務省情報流通振興課長